

特別研修

月例研究会 議事録 (10 月) 2009 年度第 5 回

報告題名 地域環境保全行動に対する〈よそ者〉の共感に関する研究	
報告者 小山田 晋	日時 10月29日 午後3時~
(所属分野) 環境経済学研究室	場所 第8講義室
座長 水木	議事録担当者 八木
出席者 長谷部、木谷、安江、米倉、川島、伊藤、石井、齋藤、水澤、小山田、韓、スチン、ソ、八木、柳瀬、宮本、カルナ、マヌルン、神浦、福田、水木、宮里、渡邊、北脇、泉井、遠藤、月僧、今野、齋藤、鈴木、滝田、中村、永井、ミズノ、山下	
報告要旨 地域環境には行政、自然保護団体、地域住民など多様な主体が関わっているが、それぞれがどのように地域環境を捉えているかは互いに異なっていることが多く、時として保全のあり方をめぐり対立が発生することもある。たとえば、かつて白神山地を世界遺産にする際に、行政（営林局）はブナ林という貴重な「原生自然」を守るために部分的な立ち入り禁止を決定したが、地域住民は人とブナ林のかかわりを断つ自然保護のあり方に反発し、双方の見解の相違はやがて深刻な対立に発展した。このように、同じ地域内の行政や自然保護団体でさえも、地域住民にとっては地域環境保全のあり方を共有できないことがあり、そういう意味で、いわば〈よそ者〉であるといえる。 地域内の〈よそ者〉と地域住民との対立は、地域環境保全を地域全体で進めて行く上で大きな障害となりうる。そこで本研究では、地域内の〈よそ者〉が「地域住民にとっての地域環境保全のあり方」に気づく契機として「共感」を取り上げる。そして、「共感」が発生するために必要な条件を実証的に明らかにすることで、地域環境保全をめぐり対立を緩和させるための方策を提案することを目的とする（今回の報告では、分析の途中結果まで紹介する）。 「共感」の発生条件について、「地域経験が豊かであるほど、地域環境保全において地域住民の意見に共感しやすい」という仮説を立てる。なぜなら、地域住民に「共感」するとは、「自分がその地域住民だったらどうするか」という想像上の立場の置き換えをすることであり、そのためには「自分自身の地域経験」が必要になってくるからである。 この仮説を実証するために、地域環境保全のあり方に対する意見を問う質問紙調査を行う。対象は、福島県相馬市の地域住民、行政、自然保護団体である。この三者が、同市の国立自然公園「松川浦」の保全のあり方についてどのような意見を持つかを明らかにした上で、地域経験がそうした意見の決定にどのような影響を与えているかを分析する（行政、自然保護団体については現在調査中）。また、地域内の利害関係が意見に与える影響を控除して純粋に「共感」のみを見るために、世界遺産の「白神山地」についても同様に三者の意見を問い、地域経験との関係を分析する。 現在入手済みの相馬市地域住民のデータを用いて分析を行った。その結果、地域経験が豊かであるほど白神山地付近の住民の意見に賛同（共感）しやすいという傾向が見られた。	

質疑・応答

水木 : 白神山地の入山禁止問題について、対立はまだ続いているか。

小山田 : お互いの折衷案という事で、届け出を出せば入山出来るよう決まった。

米倉 : 青森と秋田で、住民の利用の仕方について、地形的な違いはあるか。

スミスの“共感”は、英語で何か。

また、研究の意義が見えてこない。例えば発展途上国では、開発を進める住民に対して、行政側が開発を中止するよう、説得しなければならない。このように行政側の訴えを通す事が、研究の意義か。

小山田 : 秋田側のブナ林は、青森側に比べてかなり少なくなっている。そのため、対立への取り組みに違いが出来た。

“共感”は英語で” Sympathy”。

研究の意義は、行政が住民を統制するため無く、住民の意向を理解する方法として、“共感”が使えるのではないかという提案。

米倉 : 大事なのは、環境保護をすべきか否かの評価ではないか。そうした評価は、議論の中にあるか。

小山田 : その議論は無い。(住民と行政が)対等な議論をするために、形式知的なものだけでなく、暗黙知的なものも含めなければならないとする研究。

石井 : 非文字の知識を文字化する事は出来ない。非文字の知識に共感するとは、何に共感する事か。

小山田 : 非文字の知識は、語られないものだと考えている。共感するという事は、非文字の知識によって地域環境をとらえるという住民のスタイルを理解する事。

安江 : 口承等あるので、非文字の知識が、語られないというのはおかしい。また、地域と話し合いの場の重なっている部分は、何を示しているのか。

小山田 : 語る事が出来ないというのは、説明的に語るができないということ。物語ることはできると考えている。図については、同じ人が地域にいて、話し合いの場にもいる事を表しているのだから、地域と話し合いの場の円は、重ならない。間違いだった。

安江 : 重なる部分を、共感に繋がるように示したほうが、分かりやすくなるのではないか。